

今回のご説明の概要（沢の上流域調査）

基本的な考え方

- ・ 沢の水生生物等の生息状況の調査は、これまで全体 33 の沢で可能な限り遡上し、作業の安全性等を考慮した上で調査範囲を設定し、調査を実施してきました。
- ・ 静岡県から新たに上流域へのアクセスルートの情報提供があったため、より上流域での調査を実施できる可能性のある沢を対象に上流域調査を実施することを考えています。
- ・ 上流域調査の対象地点は、表 1、図 1 に記載の 15 の沢です。

表 1 沢の上流域調査の対象地点

沢01	内無沢	沢15	二軒小屋南西の沢
沢02	魚無沢	沢16	上スリバチ沢
沢03	瀬戸沢	沢17	スリバチ沢
沢05	西小石沢	沢18	車屋沢
沢07	蛇抜沢	沢21	大尻沢
沢09	悪沢	沢29	蛇沢
沢13	ジャガ沢	沢33	北俣・中俣合流部付近
沢14	流沢		

凡例

：水収支解析¹の結果、流量減少が予測される沢

¹ 上流域モデルによる解析結果。上流域モデルとは、国土交通省 リニア中央新幹線静岡工区有識者会議（環境保全）において、大井川上流域の沢の影響分析という目的のもと、新たに作成した GETFLOWS による解析モデル。

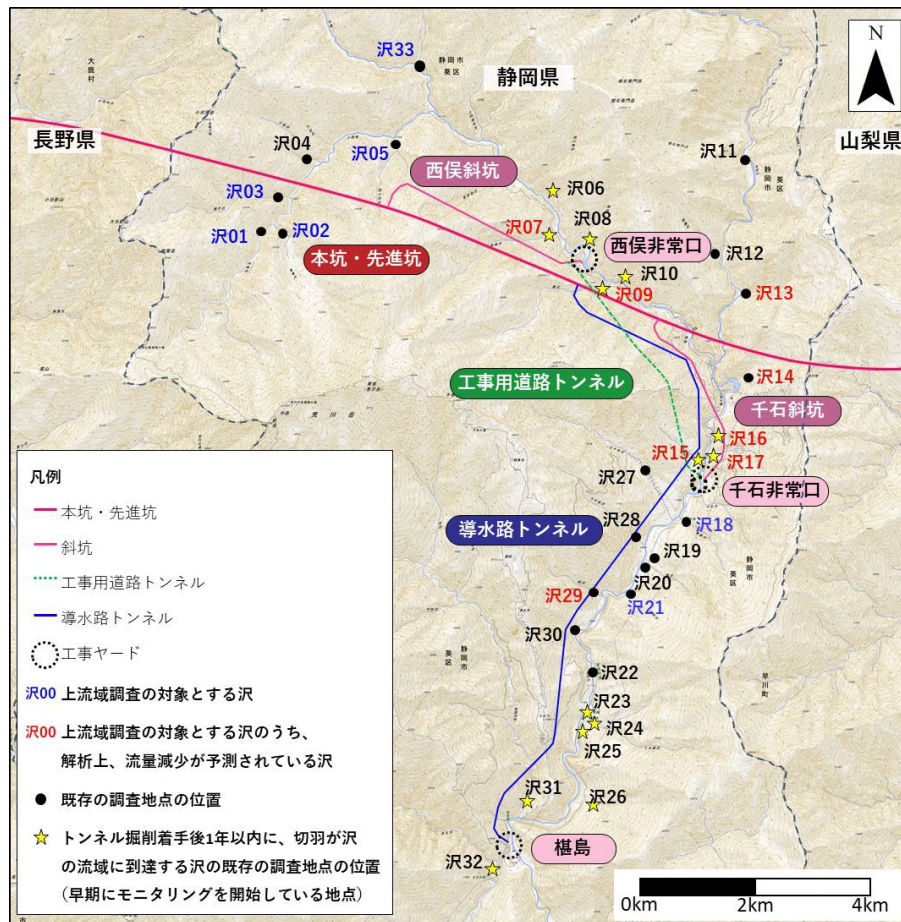


図 1 既存の調査地点と上流域調査の対象とする沢

事前の現地踏査について

- ・まず安全性を考慮した上で実施可能な調査手法の検討のための事前の現地踏査を実施します。事前の現地踏査の結果を踏まえて、当該沢の上流域調査の方針を以下の①から③の順に検討します。

《上流域調査の方針》

- 方針①：捕獲を中心とした現地調査と環境DNA分析による調査の両方を実施（現地踏査を行い調査の安全性等を検討した結果、捕獲を中心とした現地調査と環境DNA分析による調査の両方を実施可能な場合）
- 方針②：環境DNA分析による調査のみ実施（現地踏査を行い調査の安全性等を検討した結果、捕獲を中心とした現地調査の実施が困難であり、環境DNA分析による調査のみ実施可能な場合）
- 方針③：上流域の調査は実施不可（現地踏査を行い調査の安全性等を検討した結果、捕獲を中心とした現地調査と環境DNA分析による調査がともに実施困難な場合）

- ・事前の現地踏査の目的、事前の現地踏査での具体的な確認項目、事前の現地踏査を実施する調査候補地の選定については以下の通りです。

【事前の現地踏査の目的】

- ・秋季の本調査に向けた、各沢の調査候補地へのアクセスルートの確認、調査範囲、方法等の検討を行うことを目的に事前の現地踏査を行います。

【事前の現地踏査での具体的な確認項目】

①調査候補地までのアクセスルートの確認

- ・安全性、調査の実現性を踏まえた各沢の調査候補地へのアクセスルートを確認します。
- ・なお、各沢の調査候補地へ向かう道のりにおいて、希少動植物の情報が確認された場合は、対応可能な範囲で確認種及び確認位置を記録します。

②調査候補地及び調査候補地周辺の環境条件の確認

- ・調査候補地の現地状況等を写真等で記録します。また、魚眼レンズ等を用いて沢の開空状況を確認します（地面に魚眼レンズ等を取り付けたカメラを設置し、1つの調査候補地につき数箇所撮影し、撮影時の方角も記録）。
- ・360° カメラ等を用いて沢の流況を把握するための景観写真を撮影します（調査候補地の範囲内全体を網羅的に撮影することを基本とし、現地での作業時間等から対応困難な場合は1つの調査候補地につき数カ所で撮影し、撮影時の方角も記録）。
- ・湧き間を見つけるため、沢沿いの水たまりや周辺の斜面から染み出てきた水が溜まっている箇所の水温、ECを計測します。また、調査候補地内においても、環境条件の異なる複数箇所で水温、ECを計測します。

※計測した結果、その他の箇所と比較し水温やECに差がある箇所は、湧き間の可能性がある。

- ・各沢の調査候補地内で確認される淵の水深を可能な範囲で測定します。

③秋季に実施する本調査に向けた調査計画の検討

- ・調査範囲の確認及び調査方法を検討します。

④その他特記事項

- ・アカイシサンショウウオの環境DNA分析を実施するための採水を実施します。採水箇所数は、1つの調査候補地あたり3箇所で採水を基本とします。採水箇所は、各沢の調査候補地内のガレ場から水が染み出している箇所もしくはその下流側で採水可能な箇所を基本とします。なお、調査候補地内に当該箇所が確認されなかった場合は、調査候補地の範囲内で上流と下流など環境条件の異なる箇所で採水することとします。
- ・タゴガエルの鳴き声が聞こえた場合、可能な限り録音します（聞こえたら録音開始する。録音した時刻も記録する）。

【事前の現地踏査を実施する調査候補地の選定について】

- ・調査候補地については、以下の３要件を可能な限り満たすよう選定しました。

- ① 渇水期に撮影された衛星画像から水線が確認される範囲のうち、最上流端付近より、やや下流（自然の渇水の影響とトンネル掘削による影響を区別しやすいため。また、最上流端付近よりやや下流とするのは降水量によって渇水期の水線の標高は変化する可能性があるため）
- ② 上流域モデルにより流量減少が予測される範囲
- ③ 平水期相当の衛星写真を使用して判別した各生息場類型（小滝、淵、早瀬、平瀬）を含んだ範囲

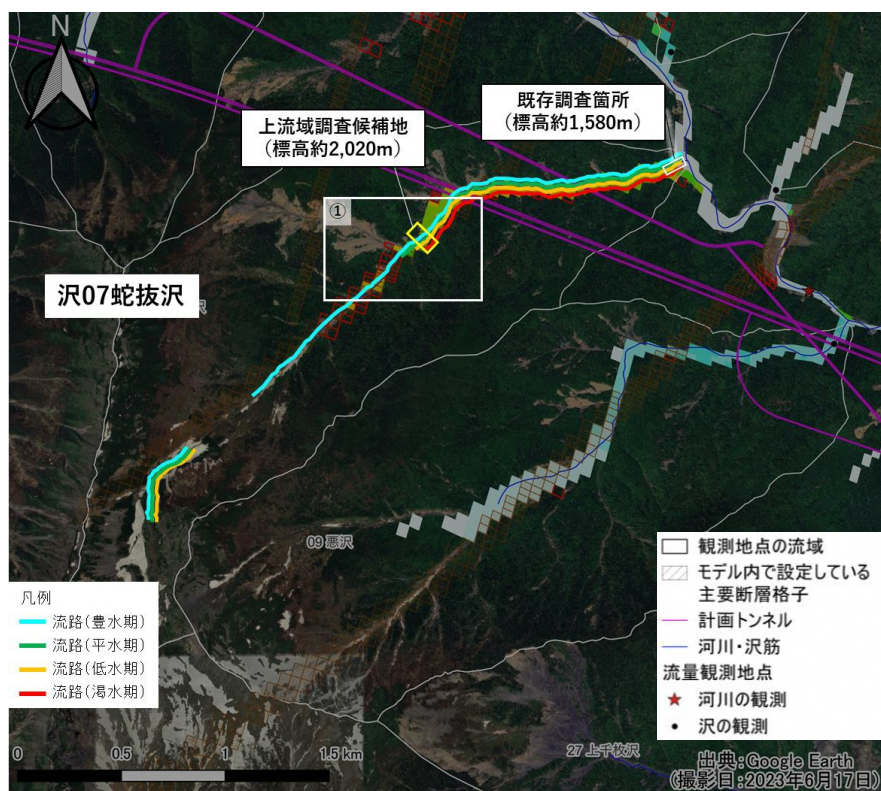


図 2 上流域調査候補地の例（蛇抜沢）

【現地踏査及び上流域調査のスケジュールについて】

- ・令和 7 年度春季～夏季にかけて、上流域における安全を確保したうえでの調査方法の検討のための現地踏査を、静岡県同行の下、実施します。
- ・現地踏査の結果を踏まえた調査方法を検討し、具体的な調査計画を県専門部会委員にご確認いただき、令和 7 年度秋季に上流域調査を実施します。